会　議　録

会　議　名	平成２８年度第２回小金井市立はけの森美術館運営協議会		
事　務　局	市民部　コミュニティ文化課（はけの森美術館）		
開　催　日　時	平成２８年８月２６日（金）１８時３０分～２０時００分		
開　催　場　所	市立はけの森美術館　多目的講義室		
出　席　委　員	鉄矢悦朗会長 山村仁志委員 上原佐世子委員 川﨑京子委員 小林正隆委員 平岡良一委員		
欠　席　委　員	（な　し）		
事　務　局　員	学芸顧問　　薩摩雅登 コミュニティ文化課文化推進係　　吉川、永井 　同　　はけの森美術館学芸員　鈴木、中村		
傍聴の可否	可		
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由		傍聴者数	０人
会　議　次　第	（１）展覧会「開館１０周年記念中村研一とその時代－笠間日動美術館のパレットコレクションより」の観覧 （２）事業実施報告等 （３）意見交換等 （４）その他　次回日程調整等		
会　議　結　果	別紙のとおり		
会　議　要　旨	別紙のとおり		
提　出　資　料	（１）開催した展覧会・ワークシップ等及び今後の予定 （２）平成２８年度年間スケジュール （３）ワークショップ等アンケート結果		

平成２８年度　第２回小金井市立はけの森美術館運営協議会

平成２８年８月２６日（金）

【鉄矢会長】　本日はご多忙の中、お集まりいただき、まことにありがとうございます。ただいまより、平成２８年度第２回小金井市立はけの森美術館運営協議会を開会いたします。

次第の１の展覧会の観覧につきましては、既に皆様にごらんいただいたかと思いますので、次の議題に進ませていただきます。

では、まず、学芸員の交代などがありましたので、紹介をお願いできますでしょうか。

【平岡委員（館長）】　では、館長の私のほうから紹介をさせていただきます。

５月末付で退職しました中村めぐみ学芸員の後任としまして、６月１日付で採用となりました学芸員の中村ひのでございます。

【中村学芸員】　ただいまご紹介をいただきました中村でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

前任も中村ということで少しややこしいですけれども、６月１日からこちらのほうでお世話になっております。

以前、こちらで年報をつくった際に、こちらの仕事に当たらせていただいて、それがおよそ５年くらい前になります。そのときはどちらかというと内側で過去の記録などを洗ったりする仕事をしておりまして、今度はどちらかというと外と積極的にかかわるような形で仕事をさせていただく形になりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【平岡委員（館長）】　それ以外の事務局については、前回と変更ございませんので、引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

【鉄矢会長】　ありがとうございます。

では、本日の配付資料の確認を事務局のほうでお願いいたします。

【事務局（吉川）】　配付資料については、お手元にあるかどうかご確認をお願いいたします。

まず、次第が１枚ありまして、資料１と、あと、年間スケジュールが書いてあります資料２と、おはなしのへやのアンケートが書いてあります資料３と、４枚お手元にあれば、資料は大丈夫です。不足している方がいらっしゃいましたら、言っていただければ。大丈

夫でしょうか。よろしくお願いいたします。

【鉄矢会長】　その他、今の展覧会のパンフレットと、日動美術館のチラシと、「アニメーションの背景を体験しよう」という牟田先生のワークショップ、９月１１日のものと、それから、これは薩摩先生のほうだから、藝大美術館のもんですね。

では、事務局のほうから事業実施報告を次第に基づいてお願いいたします。

【事務局（吉川）】　それでは、内容等は学芸員から説明いたしますけれども、予算の状況について先にご報告させていただきます。

前回の会議では２カ月間の予算だけの暫定予算の状況であるとのご説明をしましたけれども、５月２４日に開かれました市議会臨時会において、今年度、１年間の予算が可決成立しましたので、５月２４日以降の時点から展覧会の準備等を急いで行いまして、今回の展覧会と次の展覧会と何とか、今回の展覧会は開催できるところまでこぎつけたところですが、今、展覧会を一本やりながらも、次の展覧会を準備しなくてはいけない状況なので、広報等々、後手後手には回っておりますけれども、今、一生懸命やっておりますので、ご理解のほど、よろしくお願いしたいと思います。

では、前回の会議以降の事業の報告と、今年度の今後の予定について、学芸員から説明させていただきます。

【鈴木学芸員】　それでは、資料１のほうを中心にお話をさせていただきます。

資料の２に関しましては、年間スケジュールになっておりますので、そちらは参考程度にごらんになっていただければと思います。

まず、１の開催した展覧会・ワークショップ等ですけれども、まず、展覧会としましては、５月１５日で、前回の運営協議会のときに見ていただいたところですけれども、所蔵作品展「開館１０周年記念　中村研一回顧展」の所蔵作品展が無事に終わりました。観覧者数は、大人の方が１,３０９人で、お子さんは２４人でした。

最終日の前日に関連企画としまして、ギャラリートークを行いました。その日は、中村研一の生誕の日であります５月１４日を記念した無料観覧日になっていたということもあって、お客様には、たくさん来ていただきました。その中でギャラリートークを行ったんですが、参加者が３５人で、多くの方に参加していただいて、とても充実したトークができたと思います。

２番目としましては、現在開催しております「中村研一とその時代―笠間日動美術館のパレットコレクションより」ですが、期間は８月１３日から始まりまして、９月１８日ま

で開催することになっています。

現在のところは、大人の方が１１１人で、子どもの方が３４人の方に来ていただいています。

今回は毎週月曜日と火曜日が休館日になっておりますので、また今回は暫定予算などもあって、展覧会のチラシとかそういったものが全体的におくれたということもあるので、ちょっと観覧者数があまり伸びていないこともあるんですけれども、１８日までに少しでも多くの方にお越しいただければと思っています。

この展覧会の関連企画といたしましては、ギャラリートークをまず行っています。８月２０日と９月１０日ですけれども、１回目の８月２０日に関しては、参加者の方は４人でした。ただ、４人の方とすごく密接な感じで、質問なども受けながらいろいろお話ができ、お客様の反応も間近で感じることができたので、充実したトークになったのではないかと考えています。

また、２番目の関連企画としましては、資料の２ページ目ですけれども、「おはなしのへや～展覧会鑑賞つき！」です。

【中村学芸員】　　こちらに関しましては、私のほうから報告させていただきます。

８月２４日、つい最近ですけれども、「おはなしのへや」、「こごうちぶんこ　ことりのへや」の協力を得て、読み聞かせを中心としたワークショップのような形でやっていますけれども、こちらを実施いたしました。

今まで「こごうちぶんこ　ことりのへや」と協力をしながらお話の部屋ということで読み聞かせをやってきたわけですけれども、これを展覧会の鑑賞付で行うというのを、今回、初めて行いました。

展示作品を特別解説付で鑑賞した後、読み聞かせと工作を楽しみますということで案内をしていました。この８月２４日というのが、ご記憶に新しいと思うんですけれども、台風が接近していて天候が非常に不安定だったときで、参加者がどうなのだろうかということで危惧していたんですけれども、最終的には、参加者１３人、大人３人、子ども１０人とありますけれども、小中学生５人、未就学児５人という形で、タイミングとしてはかなり厳しいところではあったんですが、ある程度の参加数となりました。

こちらは最初、特別解説付で最初に見てもらうということで案内をしていたんですけれども、そういった天候などとのバランスを見ながら、実際の実施としては、読み聞かせをその後、２階の展示室に移動して、展示を見てもらって、最後に工作をしてもらうという

形をとりました。

今、こちら、スライドで映しているのは、ちょうど参加者の方たちに展示室の中に入ってもらっているところで、この日、読み聞かせのところもパレットだとか、絵を描くということにちなんだような読み聞かせの本を選んでもらいました。それを聞いた上で、展示室に行って、今、このパレット、それぞれに見てもらっていますけれども、簡単な説明をしながら、それぞれ見てもらうという形をとりました。

個々のパレットの説明をしたんですけれども、一つのものを参加者１３人で一度に見るというのはちょっとスペース的に厳しいものがありましたので、こういった形で、ばらばらというような形で、このようなものを見てもらったりしています。

その後、多目的室、こちらのお部屋に戻ってきて、工作をしてもらうという流れをとりました。このときの工作なんですけれども、段ボールをパレット型に切ったものを、こごうちぶんこさんのほうで用意してもらっていまして、そのパレット型に切った段ボールに思い思い絵の具を使って絵を描くということをやりました。

ちょうど中央あたりに机を出しまして、今、スライドで映しているような形でそれぞれ、思い思いに、色とかは好きなようにしてもらうという形で制作をしてもらって、最終的にでき上がったものをこんな感じで、みんなで見たりするというような流れをとっていました。

今、子どもたちが前に集まっていますけれども、読み聞かせということで、大人の方たちもこの工作はしたんですけれども、この子どもたちが中心になって、こういう、それぞれ、思い思いのものをつくって、子どもとしては結構やりがいがあったというか、それぞれ、めいめいパレットをつくり上げることができたので、流れとしては非常にまとまりのいいものになりました。

天候もちょっと心配していたんですけれども、この工作をやっているときに、タイミングよく、わりと天候が崩れずに進んだので、帰るときにもそんなにつくったものが濡れたりとかいうことも心配しないで帰っていけるというふうになりました。

こちら、資料３のほうが、このおはなしのへやのアンケート結果になっているんですけれども、アンケートを配付したんですが、回答してくれた方が２人だけで、非常に、内容としてはご報告することもお恥ずかしいような結果になっているんですけれども、内容としてはお二人とも満足だったというふうに回答をいただいています。

一方で、感想の中で、初めての試みである鑑賞のほうですけれども、「時折ことばが難し

かった」というような意見が出ているんですけれども、これに関しましては子どもが１０人というのが、高学年の子から未就学児、２歳ぐらいのお子さんまでという、ちょっと年齢が非常に幅広くなっていたんですね。それで、鑑賞の解説をするといっても、何歳ぐらいのお子さんに合わせるかというのが、ちょっとこちらも試行錯誤になっていまして、年齢の高い小学生のお子さんに合わせると、小さいお子さんたちはわけがわからなくて飽きてしまうし、かといって、小さい子たちに合わせると、ちょっと簡単すぎる内容で小学生が飽きてしまうというような形で、そういった試行錯誤というところが影響したものと思われます。

「こごうちぶんこ　ことりのへや」との協力で、このおはなしのへやというものは続けてきたので、今回、初めてこういった形で展覧会とのかかわりというのを、意図的にかなり取り入れたものにしてみたんですけれども、初回としてはまあまあ、特にトラブルもなく無事に終わったかなという感じなんですが、今後、こういった形でやっていくかということに関しては、この「時折ことばが難しかった」という意見も含めて考えていく必要があるかと思います。

【鈴木学芸員】　　この後、「開催予定の夏の思い出を描く」につきましては、今後開催予定の展覧会・ワークショップのほうでお話することになりますので、よろしくお願いいたします。

また、（２）教育普及事業なんですけれども、５月１３日に鑑賞教室が行われました。このときは南小学校の鑑賞教室として児童９４人の方に参加していただきました。

続きまして、そのほかのところになりますけれども、作品貸出をこの間にたくさん行っています。

まず、前回もお話ししたかと思いますけれども、新居浜市美術館で行われた「新居浜の美術〈昨日・今日・明日Ⅲ〉―光風会を中心に―」という展覧会に、当館が所蔵している中村研一の作品７点、油彩２点と素描５点をお貸しいたしました。

また、兵庫県立美術館と広島市現代美術館に巡回する「１９４５年±５年」の展覧会に中村研一の＜＜シンガポールへの道＞＞をお貸ししています。

また、３つ目では、株式会社ホテルオークラ東京で行われました「第２２回　秘蔵の名品　アートコレクション展　旅への憧れ、愛しの風景」の展覧会に作品をお貸しいたしました。ここでは中村研一の「フランス風景」の作品を貸し出しました。

今回ほぼ、同じ期間、貸出依頼が集中しましたが、この背景には、当館で行われている

中村研一の展覧会活動であるとか、研究活動が評価していただいているのかなということと、また、近年、中村研一の研究も随分進み、中村研一の再評価がなされていることがあるのかなと考えています。

続きまして、２.今後開催予定の展覧会・ワークショップ等になります。

【中村学芸員】　展覧会のワークショップということで、企画展「中村研一とその時代」の関連企画として、この後、行われる予定の「夏の思い出を描く」というワークショップについて報告させていただきます。

こちらに関しては、９月１１日に行われるということで、今、準備を進めているところなんですけれども、こちらのコースに関しては、牟田いずみさん、２０１３年と２０１５年に当館のほうでワークショップをしてもらった牟田いずみさんに、引き続いて、２０１６年度に関してもやってもらおうということで、こちらの企画を立てています。

２０１３年、２０１５年に関しては、雲を描くであるとか、富士山を描くというような、具体的なモチーフを決めて、それを実際に描いてもらうというワークショップをしていたんですけれども、今回に関しては、夏の思い出を描くという、若干、抽象的なタイトルにしています。

これに関しては、夏の思い出ということで、例えば海に行ったとか、山に行ったとか、そういうそれぞれの思い出というのを絵にしてもらうというような流れを考えていて、今までやってきた空を描くとか山を描くというようなことを下敷きにして、それぞれの創意工夫というか、そういうようなところも考えていけるようなものにしたいということで、準備を進めています。

こちらのほうが、お手元に告知のチラシもつくったものを１枚ずつお配りしているんですけれども、今、申し込みの期限が迫ってきてはいるんですけれども、今回の展示が夏休みに入っていたということもありまして、まだ申し込みのほうがなかなか勢いがついていなくて、数としては厳しいというか、なかなか増えてこないという状況にありましたので、できるだけ、このワークショップ自体の告知というのは進めたいというふうに考えまして、今回、このワークショップのチラシというものをつくって、美術館のほうで配ったりですとか、あとは公民館などでも配っていただけるような形で告知を進めています。

【鈴木学芸員】　また、今後の開催予定では、企画展「風景への視線―郡山市立美術館所蔵近代イギリス風景画展」を開催する予定です。

会期といたしましては、平成２８年１０月７日から１２月１８日ということで、今、急

ぎ準備を進めているというところです。

この展覧会は郡山市立美術館にとてもご協力いただいて、郡山の美術館が所蔵されている貴重な風景画を多数お貸しいただきます。

関連企画なんですけれども、ギャラリートークを１０月１６日（日）と１２月１７日（日）に行う予定です。

これには記さなかったんですけれども、これ以外といたしましては、ギャラリーコンサート、また、ワークショップなどを開催する予定でいます。

【中村学芸員】　　では、その後、（２）教育普及事業の鑑賞教室について報告させていただきます。

今後、鑑賞教室が９月からスタートする見通しで、スケジュールに関してはこちら、３ページに記載したとおりとなっています。

直近としましては、９月９日に前原小学校が来る予定でして、つい昨日になりますけれども、前原小学校の先生が事前に展示の内容を見にきてくれて、そのときに、どういった形で流れをするのがいいかということも簡単に打ち合わせをさせていただきました。

こちらでは、９月９日と９月１５日、東小学校のところまでが今回のパレットの展示で来る予定になっていまして、その後の緑小学校、１１月以降のものが、こちら、先ほどご報告しました企画展「風景への視線」という仮題になっていますけれども、次の展示のところで来てくれるという予定になっています。

前原小学校に関しては、一度、こちらの多目的室の中で簡単にレクチャーをした後に、２階の展示室を見て、さらに１階の展示室も見ていってもらうというような流れで、昨日ですけれども、簡単に打ち合わせをさせていただきました。

報告としては以上になります。

【鉄矢会長】　　ありがとうございました。皆さん、委員のほうから質問、意見等ありましたら、お願いいたします。

済みません、鉄矢から質問です。

小学生とか、ワークショップに来た子どもたちって、油絵のパレットって理解できたんでしょうか。油絵というもの自身を、子どもが自分たちの水彩絵の具のプラスチックのパレットしか見たことなくて、仕切りがあるのに、あのパレットってどんなふうに。

【中村学芸員】　　まずは、そこはちょっと気になるところではあったので、前回、「こごうちぶんこ　ことりのへや」との協力で行ったおはなしのへやでは、まず、入ってもらっ

たときに、パレットに関する説明というのは簡単にして、これは油絵を描くときのパレットだということをちょっと言って、普段、みんなが使っているのは、例えば水彩絵の具用のパレットだと思うんだけれどもということを話をしました。

一番最初に、まず、そもそもパレットというのを使ったことがあるかということを聞いてみたんですけれども、答えてくれた小学生の子たちは、少なくとも、みんな、パレットと言われて、大体、具体的なものが思い浮かぶし、実際に使ったこともあるというような反応をしていました。

なので、そこで、パレットというのがそもそもぴんと来ないという流れはなくて、どちらかというと、おはなしのへやのときは、非常にスムーズに油絵のパレットというのも理解してもらったんですけれども、この後、小学生鑑賞教室のほうに関しては、ちょっと、ここで、多目的室のところで事前レクチャーをする段階で、そこを改めて説明しようというふうに考えています。

【鉄矢会長】　ありがとうございます。

そのほか、大丈夫ですか。

【川﨑委員】　同じおはなしのへやについてなんですけど、５歳以上という対象年齢になっていて、すごい個人的なんですけど、子どもが、今、３歳で、すごい、これを見たときに「行きたい」と思ったんですけど、５歳以上となって、「あ、だめだ」と思って、おとといい諦めたんですけど。でも、実際、来た方を見ていたら結構小さい２歳ぐらいの子から来ていたということなので、当日行って交渉次第で入れるものなんですか。

【中村学芸員】　そうですね。ここに関しては、実際、当日、この２歳とか小さいお子さんに関しては、やっぱり兄弟で来ていたというケースなんですね。

【川﨑委員】　上の子が大きいということですね。

【中村学芸員】　そうですね。上の子がお母さんと一緒に来ていて、下の子も連れてきたという場合、やっぱりそういったときに、一緒に来られたお子さんをその子だけ入れられないという形にはちょっと対応ができませんでしたので、ここは最終的にはお母さん連れで入ってもらうという選択にしたんですけれども。

ただ、やっぱり結果として、そういったことをしたということで、年齢層が非常に広がって、その対応という意味でもちょっとこちらも難しくなったので、ここに関しては、今後、どういった形で、こういう鑑賞付のおはなしのへやを続けるのであれば、やっぱり年齢層をどういうふうに考えていくかということと、そういうふうに募集していなかった年

齢のお子さんが実際に来たときにどうするかというのは少し、今回を経て考えていく課題と感じました。

【川﨑委員】　５歳以上というのが、結構、過去のものを見ても多いかなと思ったんですけど、やっぱりあんまり小さすぎる子には対応しにくいということですか。３、４歳ぐらいだと、ちょっと。

【中村学芸員】　そうですね。今回に関しては、パレットを見てもらって、解説を聞いてもらうという意味では、あんまり小さいと説明をされても興味が持てないし、飽きちゃったらお子さん自身にとっても厳しいんじゃないかというところがあって、少し、年齢としては、そういう説明が聞けそうな年齢からという形で募集をしたんですね。

当日、お母さんが一緒に連れてきて、小さいお子さんに関しては、ずっと面倒を見てくれてはいたんですけれども、やっぱり読み聞かせの途中でちょっと注意力が切れてしまって、歩き出しちゃうというようなケースも見られましたので、そこはちょっと難しいところなんですけれども、お子さんにとっても苦痛ではないし、楽しんでもらえるようなところという年齢を考えていくというのは、少し、今後、どうにかしたいなというところなんですけれども。

【川﨑委員】　わかりました。ありがとうございます。

【鉄矢会長】　兄弟がいるとね。兄弟がいないと、しようがないんですよね、これ。私も親子、子ども工作教室をやるんですけれども、「下の子が小さいとだめですか」と、「下の子はお母さんが見てください」とお願いしておいて、上の子を対象にしてやるしかなかったりしますし。

ぜひこれから幅広い年齢層に対応できるように。一斉授業じゃないものができるといいですね。

ほかに。

【山村委員】　展覧会についてなんですけど、拝見して、中村研一の作品と一緒に黒田清輝とか、藤島武二とか、中沢弘光とか、それから、中村研一の弟の琢二とか、お弟子さんの作品、それから友人の藤田嗣治とか、辻永が出ていました。

それで、パレットのほうはそこで共通しているのは、辻永と中村琢二ぐらいですかね。

【鈴木学芸員】　高光もあります。

【山村委員】　あ、高光も出ている。

その辺の、何て言うんですかね、一応、最初の説明だとかに書いてあるこの趣旨とか、

それから、そういう全体の作家の構成とか、あるいは日本の近代洋画の説明とかが、それぞれ、一応、みんな書いてはあるんだけれども、全体のつながりがいまいち、構成の意味というか、いまいち、つながりがよくわからなかったんですけれども、その辺のところはどうですか。

【鈴木学芸員】　正直なところ、今回、時間があまりに足りなかったというところがありました。今、山村先生がおっしゃってくださいましたように、ちょっとそういった内容のつながりが少し悪かったなというところがあったかなと思っています。

パレットのところと下の展示室もつながり、構成の仕方とか、課題はあるなと思っています。ありがとうございます。

【山村委員】　やっぱり時間がなかった。

【鈴木学芸員】　時間が足りませんでした。５月２４日に予算が成立して、そして急遽、どうなるかわからないという中でずっとやることになったりして、また、本来ですと、この展覧会は５月末に退職した学芸員が担当だったんですけど、急遽、私たちが担当したということもありまして、そういった時間的な問題もございました。

【山村委員】　単純に聞きたいんですけど、黒田と中沢弘光と藤島とは、やっぱり中村があれは持っていたものなんですか。

【鈴木学芸員】　そうです。

【山村委員】　後から集めたんじゃなくて、本人が持っていた。

【鈴木学芸員】　そうです。黒田清輝の作品に関しては、中村研一がほんとうに持っていたものですが、詳細についてはちょっと。

【山村委員】　その入手に至る経緯とかつながり、意味だとかというのはわからない。

【鈴木学芸員】　これらの作品は、財団より引き継いだものなんですけれども、十分なあまり記録が残されている訳ではないんですね。本当はそういったところもちゃんと研究して、記録として残さなければいけないところではあると思うんですけれども。

【山村委員】　わかりました。何かその辺がわかると、見るほうも、ああ、これは中村研一が親交があって、特に大事にしていたんだなとか、そういうのがわかるといいなと思ったので。

【鈴木学芸員】　ありがとうございます。

【鉄矢会長】　そうしていただければ。読み取れなかったので、何であるのかなと思って見ていて、それが今聞いて、「あ、持っていたんだ」というのは、中村研一が持っていた

絵だったというのを、と持っていない絵が混じっているんですよね。

【鈴木学芸員】　　そういうことにはなります。

【鉄矢会長】　　なりますよね。そこが展示を見ていて、どれが持っているのか、どれが持っていないのかがわかればいい。

【山村委員】　　後で寄贈されたものだとか、お弟子さんのほうで寄贈したものとか、いろいろあると思うんだよね。

【鉄矢会長】　　ありがとうございます。

そのほか、大丈夫でしょうか。

では、次第に戻りまして、意見交換になるんですね。

意見交換、来年度に向けての話なども含めて、皆様から何かありましたらご意見を。これからのはけの森美術館をもっとよくするために、先ほどのように、小さい子向けもやってくれとか。

一番、例えば、これ、行ってみたいと思った、今回、タイトルを見てそう思ったのはどの辺なんでしょうか。

【川﨑委員】　　ワークショップですよね。

【鉄矢会長】　　はい。

【川﨑委員】　　とにかく、夏休み中、暑くてどこにもあまり出かけられないということと、あと、幼稚園に入る前の３歳ぐらいの子って、結構、行く場所をもてあましていて、夏休み、わりと、小学校の学童とかも閉まっていて、結構、暇をしている親子さんがすごく多いんです。

私も、こういうのすごく、工作とかも息子がすごく好きですし、おはなしのへやのこごうちぶんこさんも、市のセンターのほうでよく読み聞かせをしているので、結構、慣れている子も、そのぐらいの歳でも読み聞かせが慣れている子は結構慣れているので、行きたいなと思ったんですけど、「５歳か」と思って、ちょっと断念した。で、参加人数ももう少し下げてくれれば増えるんじゃないのかななんて思ったんです。

要観覧券でもこれだけの体験ができるんだったら参加したいなという親御さんも多いんじゃないかなと思って。確かに鑑賞付ということで、美術館の中ですし、ちょっとばたばた歩き回られたりして困ったりすることもあるかと思うんですけど、親御さんの責任で何とか。か、年齢をちょっと分けて、３歳から小学校低学年ぐらいまでと、高学年からとか、何か分けて、見る機会とか、こういう読み聞かせに参加する機会が美術館であったら、ま

た新しい体験ができていいかなと思ったんですね。

【鉄矢会長】　　行けるかどうかわからないし、子育て支援とかいろいろなところがやっている中が日常で、美術館はそれで、もっと晴れの場で、ときどき、ぴょっと何かあるとかかもしれないですね。

【中村学芸員】　　「こごうちぶんこ　ことりのへや」との協力でずっとおはなしのへやをやってきたというところがありまして、改めて、なぜ美術館でおはなしのへやをやるのかというと、美術館でやるというところの意味を改めて考えていく必要があるということは、６月にこちらに参りまして、わりとすぐにこごうちぶんこさんと話し合いをさせていただいたんですね。

やっぱりほかのところでやっているのとは違って、なぜ美術館でやるのかというところを絡めて、今回、初めて特別鑑賞をつけるというふうに、美術館でやっていることの意味というものを試しにやってみたんですけれども、その中で、一方で、「こごうちぶんこ　ことりのへや」というものに親しんでいる方たちの中には、小さいお子さんというのがメインの層としてあるというところもありますので、今回、初めての試みとして鑑賞をつけるということをやってみて、そこが改めてわかったところでもありますし、一方で、実際にやってみないとわからないところでもあったので、今後に生かしていきたいと思います。

【鉄矢会長】　　いいですね。化学反応が起き始めている。本が、こごうちぶんこが入ったよと言ったら、入ったよって言って、入っていって、入っただけのときじゃない。今度、入ったからどうするの、そこにちゃんとストーリーが生まれないと美術館らしくないんじゃないのというような動きがあって、多分、いろいろな苦渋の決断も出てくるかと思いますけど、頑張ってください。

お聞きしたいのは、茶室はどうなるんですか。

【事務局（吉川）】　　茶室については、一応、市の中期財政計画というものに載っております。

【鉄矢会長】　　載っているんですか。

【事務局（吉川）】　　はい。修復工事が載っていますが、毎年、延伸となっていますので。

今年、少し状況が変わったのが、生涯学習課の文化財係に文化財の審議会があるんですけれども、そちらに建築の専門の先生が入られたんですね。いろいろ事情が、江戸東京たてもの園の関係などもありまして、建物の専門の理科大の先生が入られて、その先生が、今回、ここの茶室と旧宅のほうを全部見ていただいて、一応、文化財の指定を受けてはど

うかと言われたんですけど、喫茶で使いたいものですので。

【鉄矢会長】　　指定しても喫茶で使えるはずですよね。

【事務局（吉川）】　　そうですか。どちらかというと、本当は文化庁の有形登録文化財にしたいという希望を持っておりまして、文化財係のほうでその話を審議会のほうでもしてくださっているみたいで、ちょっとそこで、文化財としての話は少し進んでいるんですけれども、それがすぐさま修復への着手につながるかというと、ちょっと厳しいのかなというところがあります。ただ文化財ということが一つの突破口となって、修復につなげたいなとは思っています。

【山村委員】　　喫茶のほうは何か動きがあるんですか。

【事務局（吉川）】　　喫茶のほうは、３月に前の業者さんが撤退しましたので、５月、６月にかけて事業者さんを公募しました。３社応募がありまして、ちょうど８月５日に選定委員会で、企画競争だったので、プレゼンテーションを３社にしていただきまして、その中で一番点数を取った、１位となった事業者さんと、今、交渉しています。

【鉄矢会長】　　公表はまだということ。

【事務局（吉川）】　　公表はまだです。現在、やる意思があるかについての確認をしているところです。

【平岡委員（館長）】　　一応、公募のお二方もいらっしゃるので、建物の経過というか、簡単に私のほうでお話をさせていただきますと、もともと、こちらの美術館を建物ごと、作品も含めて寄贈いただいたということなんですが、実は、今、最初に話が出た茶室というのは、中村家の建物で、実際の昔というか、ほんとうの茶室として整備をされた建物がありまして、茶室だけ、一時期、お貸ししていた時代もあったんですけれども、本当の茶室なのでコンパクトすぎてしまって、メリット、デメリットもあったというように聞いているんですが、ある程度のときを境にして、お貸し出しをやめた時期があって、それからもう１０年ぐらいたってしまっているので、建物としてももったいないしどうかというのは、定期的にこちらの会議でもご意見いただいているというのが茶室で、花侵庵（かしんあん）という名前がついて、花、侵入の「侵」に庵と書いて花侵庵というところなんですけれども。

　もう一つ、喫茶が入っていたところが、いわゆる中村研一の旧宅で、その建物を財団の美術館のころから喫茶として転用して使っていたというところなんですが、事業者さんが３月で撤退されて、今に至っているということで、先ほど事務局のほうで説明があった有

形登録というか、建物としても年数も経っているし、すばらしい建築物でもあるので、両方一体としてそういうような何らか手続ができないかというのを、今、少し進めていますというような、そういうような流れになっていますので、補足させていただきます。

【鉄矢会長】　５０年ぐらい経っているんでしたっけ。

【事務局（吉川）】　５０年以上経っています。ですので、文化庁のほうには。

【鉄矢会長】　もう普通の登録文化財は出せる。

【事務局（吉川）】　クリアーはしているかと思います。

【鉄矢会長】　しているけど、所有者の市は出すつもりはあるということですか。

【事務局（吉川）】　市は出すつもりがあるんですけれども、担当している課が市長部局なので、有形登録については教育委員会を経由しないと出せないのですが、この間ずっと、私がここの課に来て以来、教育委員会と調整してきたんですけど、ここでやっと文化財のほうの話が通りまして、少し前進したところです。

【山村委員】　あれ、建築されたの、何年でしたっけ。

【事務局（吉川）】　昭和３２年ぐらいではなかったかと思います。

【平岡委員（館長）】　佐藤秀三さんですよね。

【事務局（吉川）】　佐藤秀三です。

【薩摩学芸顧問】　５７年、昭和３２年ですね。

【鉄矢会長】　母屋のほうも佐藤秀三。

【平岡委員（館長）】　そうです。両方とも。

【鉄矢会長】　何かほかにご意見。

【小林委員】　教育委員会の指導室長の小林です。よろしくお願いします。前回、公務のため、欠席で申しわけございませんでした。

教育なので、教育普及活動について、昨年度もいろいろお世話になりまして、ありがとうございました。

今年度、また、小学校が、もう南小は終わったというふうに伺いましたけど、９月からまたお世話になります。よろしくお願いします。本物の絵を間近で見るということは非常に大切なことだなと思っていますので、こちらの美術館にそういう企画をしていただいてありがたいと思っています。

昨年度、中学校の美術の時間か、美術クラブ、美術部かに行っていただいて、実技指導をしていただいたというような記憶があるんですが、間違いないでしょうか。

もし、それがあれば今年もお願いできるといいかなと思って、私の記憶違いだったら申しわけないんですが。

【事務局（吉川）】　　実技指導ではなく、中学校の職場体験ではないかと思います。

【小林委員】　　そうですか。済みません、記憶がきちんとしなくて。ちょっとそういうイメージをずっと私、持っていたもので。

では、職場体験でこちらということなんですね。またお世話になります。よろしくお願いいたします。

【鉄矢会長】　　そのほか、何かございますでしょうか。

【山村委員】　　もう１０月だから、大体決まっているかと思うんですが、郡山から借りてくる風景画ってどんなものを借りてくるんですか。

【鈴木学芸員】　　ターナーの版画作品であるとか。

【山村委員】　　油絵じゃなくて版画のほう。

【鈴木学芸員】　　ターナーの水彩画と版画と、あとサミュエル・パーマーの版画とか、あとワーグマンの油絵とか、そういった作品を通じて、イギリスの風景画の流れをたどるというような展覧会を考えています。

【鉄矢会長】　　外に出て、秋の風景画を描くワークショップ、やってほしいなって。意見、言っていいんですよね。

【鈴木学芸員】　　そうですね。そういうところもほんとうは。

【鉄矢会長】　　せっかくなら、飛び出て。季節もいいし。

【鈴木学芸員】　　そうですね。ぜひ、そういったこともできれば。

【鉄矢会長】　　できたらいいな。

【鈴木学芸員】　　できたらいいかなと思います。

【山村委員】　　中村研一はフランスのほうに留学して、直接、イギリスの風景画とつなげるのは難しいのかもしれないんですが、でも、風景画もいいもの描いていますね。

【鈴木学芸員】　　中村研一の風景とか、そういった対応などを考えさせる展示にはしたいなと考えているんですけれども。

【山村委員】　　連関とか、それなりに考えていただければと思います。

【鈴木学芸員】　　ありがとうございます。

【鉄矢会長】　　イベントで一番、意見、アニメーションのこういうワークショップのイベントの意見で、その後、抽選になるんですよね。

【中村学芸員】　　そうです。

【鉄矢会長】　　だから、今度、来てねって言って、少しぎりぎりやから来てねって言われた人が、じゃあ、私、時間調整して申し込むよって言って、申し込んで、断られることが起こるということになるわけだね。

【中村学芸員】　　ただ、今の段階で、とても抽選にはならない見込みです。お申し込みいただければもう通ります。

これに関しては、ちょっと告知がほんとうに非常に厳しい状況になってしまいまして、なかなか、告知が始まった時点で、もう小中学校が夏休みに入っていたので、学校にほとんど情報が伝わっていないんですね。お子さんたちが、多分、登校してくる９月になってすぐ始まってしまうので、そこで、今、どうやって、まず、このイベントがあること自体を知ってもらうかというところで苦戦しています。

【山村委員】　　何日に始まるんだっけ、夏休み明けは。

【中村学芸員】　　９月１日。

【小林委員】　　もし、資料があれば、この時期なので難しいんですけど、学校に何部かいただければ、配付をしてくださいというのは頼めるので、何もないよりは若干、一歩進むかなと思います。

【鉄矢会長】　　あと、今、宮地楽器ホールの前でやっている木工チャレンジで、工作をやった子どもたちが作品をとりに来る時期ですよね、多分。あそこで子どもの工作をずっとやっているので、あれを回収するとか。

【事務局（吉川）】　　地下のギャラリーで今、芸術文化振興計画推進事業の展覧会をやっているので、そこには置いてあるんですけど。

【山村委員】　　僕、昔、中学高校のとき美術部だったんですけど、夏休みに美術部で石膏を描きに行ったりとか、スケッチやったりとかしていたんですけど、そういうのは、今、ないのかな。夏休みで美術部とか文化部で出てくるとか、今はないのかしら。

【鈴木学芸員】　　そういった形で来るような学生さんはあまりいないような気がします。

【中村学芸員】　　そういった学生さんのものとうまくはまるとよかったんですけれども、これ、タイミング的に夏休みの宿題として体験してもらうということがちょっと日程上できないんですね。そこもちょっと非常にもったいないところではあるんですけれども。

【鉄矢会長】　　大学生は夏休みです。すぐ来ます、これ。

【山村委員】　　大体、美術館って８月は子どもたちを狙った、そういうもの、最近、展

覧会とか企画がすごく多いので、今年だけじゃないから、また、時期を考えたほうが。今年は予算が確かに大変だったのであれですけど。

【平岡委員（館長）】　今年は、委員の私が言うのも何なんですけど、今回の展覧会のスタートの予定が約１カ月から半月ぐらい前だったんですね。それがちょっと予算との兼ね合いでスタートがおくれた分、ずれたので、ワークショップも大体、これ、６月から７月ぐらいにいつも、やるとすれば、大体、そのころやっていることが多かったワークショップで、正直、毎回抽選だったワークショップなので、そういう意味では、我々としてもすごく残念な状況ではあるというところです。

【山村委員】　もったいないですよね。

【鉄矢会長】　このデータ、もらえますか。ＰＤＦか何かで。

【中村学芸員】　はい。

【鉄矢会長】　ＳＮＳ、載っけちゃっていいですか。

【中村学芸員】　大丈夫です。

【鉄矢会長】　私が個人的に。そういうもののほうがいいんだろうなと思って、お母さん関係ですーっと回ったり。

【山村委員】　ここではＦａｃｅｂｏｏｋとかＴｗｉｔｔｅｒは。

【平岡委員（館長）】　うち自体は持ってないんです。市役所として１本持っているんですけど、基本的に災害情報、緊急情報専用ということになっていて、それ以外のＳＮＳは市としては一切持っていなくて、ホームページも市役所のホームページの中でやっているという形です。

【鉄矢会長】　それ以外の人たちの、こういう委員にこういう情報が来ていたよ、勝手に委員が個人的に出しているのならいいという話。

【平岡委員（館長）】　はい。公開のものですので。

【山村委員】　最近は美術館でもＴｗｉｔｔｅｒとかＦａｃｅｂｏｏｋとか公式で出しています。東京都美術館は出していますし、出している美術館は多いので。

【鉄矢会長】　大学もＴｗｉｔｔｅｒを始めました。災害用という名前で。

【山村委員】　もう検討してもいいんじゃないですかね。

【平岡委員（館長）】　ＳＮＳについては結構前からいろいろと、前の代の学芸員とも話をしたことはあるんですが、運営していくことで速報性なども求められますので、様々な課題もありまして、中々難しいという状況となっています。

【鉄矢会長】　　そうすると、はけの森美術館ファンクラブみたいなＦａｃｅｂｏｏｋをつくってしまったほうが。みんな個別に勝手にアップしていくような格好で、近所でわんぱく夏まつりやっているよとか。

【平岡委員（館長）】　　そうですね。なので、時折話は出るんですけど、中々、その先には進まないという状況です。

【山村委員】　　僕もメールアドレス教えるから、そのＰＤＦをください。

【中村学芸員】　　ありがとうございます。

【山村委員】　　ささやかながら。

【鉄矢会長】　　よろしいでしょうか。ほかに。上原委員、大丈夫ですか。

【上原委員】　　今のところ大丈夫です。

【鉄矢会長】　　では、次回の日程調整等に入ってよろしいでしょうか。

薩摩先生、大丈夫ですか。意見、ありますか。

【薩摩学芸顧問】　　今年、１０周年の年に、予算がああなると、こういうふうにがたがたになるのかと私自身も初めての経験で、困ったことだなとは思っているのですが。

１０年やってきて、それなりの成果も上がってきているところがあるし、やっぱり一番大きな成果は、コレクションが増えてきた、つまり、中村研一の作品がこちらへどんどん寄贈されてきているということ。それから、結構、貸し出しも出てきたということで、あと、次の１０年、どう頑張っていくかということかなと思っています。

美術館というのは、大体、最初の１年が一番つらい。それから、１０年たてばもう潰れることはないだろうと思いますので、あとはこれをいかに充実させて発展させていくかということだと思います。

今回、イギリスの風景画というのは、今まで中村研一絡みということで、日本近代の作家しかやってきていないんです。ただ、１０周年ということもあるので、海外のもの、研一とは直接関係は、イギリス風景とはないわけですけれども、海外の絵を入れてみようという試みであります。どの程度、何が並ぶか。

でも、結構、郡山が協力的なので、それなりのものにはなるだろうと思っています。何とか今年の後半で挽回したいなという思いです。

【鉄矢会長】　　ありがとうございます。

では、次回の日程調整等について、お願いします。

【平岡委員（館長）】　　日程については、いつも、私のほうで口火を切っていますので、

私のほうで一言発言させていただきます。

例年、次回は大体１０月の中下旬ぐらいというお話をしているんですけど、今回は４年に一度の市議会選挙の関係がありまして、予算の手続の時期が若干、早まる見込みですので、可能であれば、１１月の中旬ぐらいあたりがいかがでしょうかと思っておりまして、候補としましては、展覧会は当然やっている時期になるんですけれども、１１月８日（火）から１１日（金)、それから、翌週の１５日（火）から１８日（金)、そのあたりで皆様のご都合はいかがかと思います。

【鉄矢会長】　山村先生は何曜日が。

【山村委員】　１１日（金）と１２日がだめです。１５日、１６日がだめですが、それ以外なら。

【鉄矢会長】　薩摩先生。

【薩摩学芸顧問】　まだこの辺は。

【鉄矢会長】　大丈夫。

【薩摩学芸顧問】　はい。でも、大体、火曜日にやっていますよね。

【鉄矢会長】　８日。誰か言わなきゃいけない。８日、いいですか。

【平岡委員（館長)】　では、よろしいですか。では、現時点で、それでもう確定で、会長、よろしいでしょうか。

【鉄矢会長】　はい、よろしくお願いします。これで確定で。

【小林委員】　１１月８日（火)、６時半。

【事務局】　はい。

【鉄矢会長】　では、１１月８日（火)、１８時３０分から、次回のはけの森美術館運営協議会をします。

ほかに何かありますでしょうか。

【川﨑委員】　最後にもう一個言ってもいいですか。さっき、鉄矢会長も言っていたんですけど、１０月からの次回の企画展のときに、お外で絵を描くワークショップとかできたらいいねというお話だったんですけど、それも踏まえつつ、その期間中って、武蔵野公園のくじら山のところではらっぱ祭りというのが２日間あって、ものすごい人が来るんですけど、その２日間限定じゃなくてもいいですけど、この美術館の前を駅から歩いていく人もすごく多いですし、小川沿いを歩いていく人もすごく多いので、その時期に美術館の割引券とか、来客が増える、来館者が増えるような何か仕掛けができたらいいんじゃない

かなとすごく思っていたんですけど。

お友達に聞いたら、武蔵野公園じゃなくて、はけの朝市か何かで、美術館の当日限りの割引券なのか、何かをもらったという人がいたんですけど、何かあったんですか。

【鈴木学芸員】　今のところは、はけの朝市では、展覧会のチラシやワークショップのチラシを置かせていただくことが多くて、特に割引券など置いてはいないですね。

【川﨑委員】　割引じゃなかったのか。でも、何か、そのお知らせを見て、帰りに初めて来て寄ったという方もいらっしゃったようですので。

【鈴木学芸員】　そうですね。はけの朝市の効果で、お客さんに立ち寄っていただいています。

【川﨑委員】　割引券が無理だったら、お知らせ、告知をそこで頑張ってするとか、駅から歩いてくる人も多分その時期、すごく多いので、駅で美術館のこの企画展をせっかくやっている時期なので、リーフレットを配布するとか、積極的にやると、その行き帰りだけのお客さんでも、何人かは寄ってもらえるかもしれないなと思ったんですけど。

【山村委員】　１１月のいつですか。

【川﨑委員】　１１月の、いつも、第１土日とかでやっていることが多いんですけど、かなり市外からも来る方が多いですし、ちょうど通り道なので。私もすごい大好きで行くんですけど。

【鉄矢会長】　ウッドストックみたいな感じです。

【川﨑委員】　そうなんです。フェスみたいです。

【鉄矢会長】　ちょっとびっくりします。

【川﨑委員】　ちょっと開放的な気分になるときなので、気前よく、美術館とか。

【鉄矢会長】　多分、飲食のほうはここのときに決まって入っていたりすると、そこで食べてからフェス行こうとか、はらっぱ行こうとか、やってくれるといいですね。

【上原委員】　じゃあ、よろしいでしょうか。１月から４月は空欄になっていますけれども、これは。

【鈴木学芸員】　１月から４月なんですけれども、もちろん、展覧会は所蔵展など行う予定ではいるんですけど、ただ、まだ、ちょっとあまり日程が確実ではないので書きませんでした。

その間にも、何かワークショップ等をやろうというふうには考えてはいるんですが、まだちょっといろいろ確実ではないので、情報を載せていないという形になります。

次回以降のときには何か載せられるようにしたいとは思っているんですけれども。

【薩摩学芸顧問】　　もう１１月８日までには、来年度の企画もある程度、見えていかないと。

【鉄矢会長】　　３月、４月、５月が、また年度をまたぐ展覧会が、一応、それは。

【鈴木学芸員】　　そういう形で行う予定ではあります。

【鉄矢会長】　　そうですよね。ありがとうございます。

【事務局（吉川）】　　最後に、会議録の校正なんですけれども、１回目と２回目と一緒にお願いするようになるかと思いますので、恐縮ですが、よろしくお願いいたします。

【鉄矢会長】　　ほかになければ、よろしいでしょうか。

以上で、はけの森美術館運営協議会を終了します。お疲れさまでした。

―― 了 ――